

桜が丘サイエンスプロジェクト ～肢体不自由特別支援学校における理科教育の充実と活性化を目指した取り組み～ 千葉県立桜が丘特別支援学校 教諭 茂原 伸也

1. はじめに

本校は、小学部から高等部までの子どもたちが学ぶ肢体不自由特別支援学校である。複数の教育課程を編成し、児童生徒一人ひとりに応じた指導や支援に取り組んでいる。しかしながら、様々な要因によって、理科教育の充実が進まない現状が見られていた。

そこで、「変える」「広げる」「支え合う」といった3つの方策を骨子とした「桜が丘サイエンスプロジェクト」を立ち上げ、学校全体における理科教育の充実と活性化を目指した。

2. プロジェクトの内容

(1) 方策1「変える」

筆者が担当する理科授業（中学校に準ずる教育課程）の改善に取り組んだ。肢体不自由のある生徒は、身体の動きの制限から、観察や実験を実施することが容易ではない。そこで、ICTを活用し、従来実施が難しかった顕微鏡観察などを中心とした観察や実験の充実を図った。



タブレット顕微鏡

また、卒業間近の3年生には「卒業研究」、1、2年生には「課題研究」を課すなどの「アクティブ・ラーニング」も推進し、彼らの学習意欲の向上にも取り組んだ。

(2) 方策2「広げる」

全校の児童生徒が「理科って楽しそう！」と感じたり、多くの教師が「理科を教えてみたい！」といった思いを抱いたりするように、理科に関す

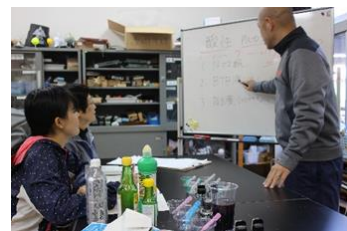
る取り組みを校内に広く知らせるようにした。授業の様子をまとめた「理科室新聞」を作成したり、理科室前にミニ科学館である「科楽感」や小動物の飼育コーナー「桜が丘動物園」などを設置したりした。また、集会や文化祭などの学校行事を利用して、生徒による学習発表やサイエンスショーなどの科学的な催しも随時開催した。



理科室新聞

(3) 方策3「支え合う」

実際に「理科を教えたい」と思っても、「どのように理科を教えていいかわからない」と考える教師は少なくない。こうした理科指導に対する不安や悩みを払拭するため、理科の指導内容・方法に関する研修会を定期的開催した。また、「桜が丘理科基金」を設立し、費用面での支援体制を充実させるなど、「教師に対するサポート体制」を確立させた。



理科指導の研修会

3. プロジェクトの成果

3つの方策が有機的に結びつき、着実に学校全体で理科教育が活性化されていく様子を感じられた。そうして現在では、校内の至る所で理科の要素を含んだ授業が盛んに行われるようになり、多くの児童生徒が数え切れないほどの「理科の感動」を享受できるようになった。